八丈島特産園芸作物における生産振興技術対策

【研究概要】

ルスカス、アシタバ及び樹上完熟「菊池レモン」などの特産園芸作物について、生産振興に資する栽培技術及び病害虫防除技術の確立に取り組む。

（１）ルスカスについて、35℃では新芽が形成されず、20℃では萌芽することを確認した。また、ミスト噴霧と換気扇稼働を組合せた管理によりハウス内温度の昇温抑制効果がある一方、葉面の濡れが顕著となった。

（２）アシタバについて、転炉スラグと硫酸マグネシウムを混合した培養土で収量が向上した。一方、転炉スラグによる株腐れ症状の防除効果は認められず、連作により同症状が助長された。また、新たに作付けした圃場では９月以降も株が生存し、採種圃場に適することが確認された。

（３）樹上完熟「菊池レモン」の施設栽培では、果実肥大初期（６～８月）の多灌水により、Ｌサイズ果実割合が高まることを確認した。摘果時には、東側かつ上位の結果枝に着果した果実を残すことで、大果を得られる可能性が高いことが分かった。また、土壌 pF メーターや灌水タイマーで各種データを採取し、灌水管理の自動化に向けた基礎データを得た。これらを基に栽培管理に資する樹上完熟「菊池レモン」の栽培マニュアルを作成した。

（４）白色防虫ネットハウスの微気象を調査した結果、気温はビニールハウスと露地の中間程度で、光量子量は露地に近く、防風効果が高いことが確認された。

（５）ルスカスこうじかび病に対するイミノクタジンアルベシル酸塩水和剤およびミズナのウスカワマイマイに対するメタアルデヒド粒剤の防除効果が一定程度認められた。一方、コマツナのウスカワマイマイに対するメタアルデヒド粒剤の防除効果は認められなかった。いずれの薬剤も薬害は認められなかった。